

## WG 活動紹介(II)

### 核データニュース編集委員会

日本原子力研究所  
中川 庸雄  
nakagawa@ndc.tokai.jaeri.go.jp

1966年頃になると、1963年から始まったシグマ委員会の活動も徐々に軌道に乗り、海外との情報交換の結果多数の貴重な資料がシグマ委員会に入ってくるようになった。そのような状況を国内の核データ研究者に広く知らせ役立ててもらおうとの趣旨で、1966年3月に「JNDC ニュース」の発行が始められた。これが「核データニュース」の前身である。

当時は、原研には核データセンターはおろかその前身である核データ研究室すらない時代であり、日本の核データ研究の黎明期といって良い。初代の編集委員は、百田光雄、大野善久、岩城利夫、飯島俊吾、中嶋龍三の5名で、シグマ委員会の歴史上も極めて大きな貢献をされた方々であった。その後1968年に核データ研究室が設置され、さらに1976年に核データ研究室が「原子核データ室」として大蔵省の認可組織になったのを契機に、「JNDC ニュース」を「核データニュース」と改題した。そして、1985年の「核データニュース No.22」からは新たに「核データニュース編集委員会」を編成して、編集にあたることになった。それまでは、当初の編集委員会から編集の主体が核データセンターに移っていたのである。1985年は、丁度 JENDL-2 が完成し使われだしたころである。これが現在の核データニュース編集委員会である。

「核データニュース」の発行は、昔はかなり不定期であったが編集委員会ができた1985年からは年に3回と決められ、それ以来名実ともに定期発行物となり現在に至っている。なお、定期発行物としての ISSN 番号は1977年の通巻39号から付けられている。

さて、前置きはこの位にして編集委員会の状況について、ご報告しよう。

編集委員は常時6、7名である。当初は数年で委員を交代する事になっていたはずだが、現実には交代は行われず、かなり特別の理由が無い限り編集委員を続けていただいている。それでも決してマンネリということはなく、臨機応変に話題を取り上げて来たと思っている。現在の編集委員は、私の他、

井頭政之（東工大）、岩本 修（原研）、長谷川明（原研）、山野直樹（住友原工）、  
吉田 正（武蔵工大）、喜多尾憲助 [オブザーバ]

である。喜多尾さんには今年の3月まで正規の委員としてご活躍いただいたが、15年度からは、シグマ委員を辞められたのでオブザーバとして参加載っている。編集その他の事務局作業は核データセンターの委員が担当している。

我々は、今書いたとおり、時の話題を臨機応変に取り上げ、それを核データ関係者にお送りするのが、核データニュースの使命であると認識している。その結果、「核データニュース」は核データの歴史を振り返る際の貴重な資料にもなっている。そういうわけで、何を次号に載せるかを決めること、これが核データニュース編集の最初であり、最も重要なステップでもある。毎回、編集委員会を開き、頭をつきあわせて、世間話のような雰囲気話で話をしながら、これはという話題を見つけている。一見楽しそうでもあるが、結構苦しんで、もがきながら、やっと目次の案を捻出していく感じである。

核データニュースの内容は、「会議のトピックス」、「話題・解説」、「読者の広場」、「シグマ委員会だより」、「核データセンターだより」、「テクニカル・コメント」と分けてある。

「会議のトピックス」は、国際会議の予定表などを見ながら、興味深い核データ関連会議を探し、シグマ委員の中に出席者がいないか検討する。どうしても身近の人が出席する会合の紹介になりやすい。執筆者は、会議のプログラムに沿って、万遍なく内容を紹介しようと努力される傾向がある。書かれる内容もその分野の専門家でないとわからない用語が頻繁にでてくる。できるだけわかりやすく要点を絞って、難しい専門用語には簡単な説明をつけつつ書いてくださるようお願いしたいのだが、一方には「記録」としての性格も期待されている訳だから、その辺のバランスが重要である。

「話題・解説」は、話題性のある特定のテーマの現状などを分かり易く、且つ詳しく紹介する記事を載せている。毎号2から3件の記事が載るようテーマを選んでいるが、これも編集委員が知る範囲で選ぶことになるので、如何に編集委員の視野を広げて目新しいテーマを見つけるかがカギである。

「読者の広場」は、本誌の読者からの投稿記事などを載せるのが本来の目的である。とは言っても、現実には待っていても原稿は戴けないので、編集委員会で検討し原稿を依頼している。その一環として「研究室だより」という枠で、関連研究室などのご紹介を書きいただいている。1989年から続けており、多くの研究室を紹介した。今回の号では、国外にも目を向け、LANLの様子を紹介している。また最近は、喜多尾さんの発案で、核データシニアの方々に近況等を書きいただいているが、好評である。

「シグマ委員会だより」は、シグマ委員会の活動状況を知らせるのが主たる目的である。「核データニュース」はシグマ委員会の機関誌でもあるのだから、委員会の活動を広く知っていただく記事を掲載するのも本誌の役目である。そのために、本稿のようにグループ紹介記事や、議事録を掲載している。シグマ委員会は、色つきのページにも書いてあるとおり、日本原子力学会の「シグマ特別専門委員会」と原研の「シグマ研究委員会」の総称であり、その組織は、色ページの裏に毎回掲載してある様な構造になってお

り、2003年度は11のワーキンググループ（WG）と、6つの常置グループがある。これらのグループを統括するのが研究委員会本委員会である。本委員は、特別専門委員会委員を兼ねている。「WG活動紹介」では、これら17のグループの活動を順番に紹介するようにしている。議事録については、昔は結構苦勞して掲載していた。議事録の掲載は1992年6月から行っているが、詳細な議事録ではなく要約版が良かろうと思い、はじめの頃は私が要約版を作成していた。馬鹿な話であるが、そのために数日を費やしたこともあった。しかし、今はJNDCmailに投稿された議事録をほぼそのまま載せており、編集委員会事務局の負担は大幅に軽減された。ここに印刷された議事録はシグマ委員会の記録でもある。WGのリーダーの方々には忙しいところ、議事録を書いていただき、感謝している。現在では、特別な会合以外の議事録はほぼ100%書かれていることは、シグマ委員会のホームページで見てもお判りの通りである。

「核データセンターだより」は、核データセンターが入手する資料の紹介が主である。冒頭に書いたとおり、JNDCニュースの主目的は、海外との情報交換の結果入ってくる資料を国内の核データ研究者に広く知らせることにあつた。だから、この資料リストが極めて重要だったわけであるが、最近は資料の数が減っていて、その重要性は薄らいだようである。海外の研究機関の事情は分からないが、原研核データセンターでもかつては、レポートにINDC（国際原子力委員会）やNEANDC（OECD/NEA核データ委員会）の資料番号を付けていた。この番号がつくと、海外関連機関への配布部数が自動的に決まり、刷り上がったレポートをINDCやNEAの事務局にまとめて送れば、そこから海外の委員に配布して貰えるようになっていた。しかし、核データセンターの予算が厳しくなり、レポートの増刷が十分にはできなくなったときから、日本は文献交換については劣等生になってしまった。今は、核データ研究会の報文集とプログレスレポートだけに番号をつけて配布している状態である。海外の研究機関にも同じような事情があるのか、最近では海外からのレポートの数も減っているように思える。

なお、資料リストに載っているレポートは、他の図書館では見られないものが多い。リストには文献番号がついており、これらのレポートはこの番号で整理されて核データセンターの資料室にあるので、ご利用いただきたい。

この他、Nuclear Data Sheetsの更新情報や、核データ関連会合の予定など、核データ研究者に役立つような情報の掲載に勤めている。

最後に、「テクニカル・コメント」といって、かなり研究論文的な内容で、学会誌に投稿する前の段階のような内容のものを掲載する場所がある。ここは編集委員会で執筆者を決めることもできず、投稿待ちの状態を続けているためか、あまり利用されていないのが現状である。

最近インターネットが普及し、ほとんどの人が自由にインターネット上の情報にアクセスできる状態になった。これに伴い、「核データニュース」もWWWで見られるようにした。執筆者から原稿をいただき清書が終わると、それをpdf化し執筆者に校正を依頼

する。校正が終了すると、印刷用の原稿を作り、まとめて印刷に廻すが、その時点で各原稿のページ数も決まるので、ページ数入りで pdf 化しなおす。それを印刷開始とほぼ同時に公開している。さらに、過去の記事も読めるようにしようということで、2002 年度には JNDC ニュース No.1 にまで遡って、スキャナーを使って読みとり、pdf 化した。さすがに古いものは不鮮明で読みにくいが、内容が分からないほどではない。

[http://wwwndc.tokai.jaeri.go.jp/JNDC/ND-news/index\\_J.html](http://wwwndc.tokai.jaeri.go.jp/JNDC/ND-news/index_J.html)

から、核データニュースの全記事が読めるので、見ていただけると、編集委員会事務局としてはうれしい。最近の記事は、読みとりではなくワープロソフトの文書をそのまま pdf 化しているので、図などはカラーで見ることができ、分かり易いと思う。

今後も「核データニュース」の発行を継続し、より充実したものにしていきたい。そのためには投稿原稿に期待したい。例えば、WG で配布される資料で、広く知ってもらいたい内容のものであれば、「話題・解説」、「テクニカル・コメント」に丁度良いはずである。グループリーダーの方からそのようなものを推薦していただけると有り難い。また、こんな記事を書いて欲しいといったご要望も貴重である。皆様のご協力を期待している。

2003 年 8 月記